

「2013年国立台湾大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学教育学部3年 (中村 優士)

0. はじめに

8/4~8/31 まで行われていた国立台湾大学（以下 NTU）のサマースクールに参加して、様々なことを体験し、考えた。この経験をもとに、報告書としてここに以下の二点をまとめたいと思う。1点目がこのサマースクールを通して感じた、自分自身の成長について。2点目は NTU のサマースクールの特徴についてである。

1. 自分自身の成長について

約一か月間台湾で過ごし、サマースクールに参加したことを通して成長した点として、語学面の成長と文化に対する理解の面での成長の2点を挙げたい。私が参加したプログラムは中国語の集中学習コースだったので、もちろん中国語のスキルが向上したことは間違いがない。具体的に成長の度合いを示す例としては、最終日に行ったプレゼンの成功である。私が行ったプレゼンは SONY のスマートフォン X-peria を5分間で紹介するものであった。出発前に中国語のプレゼンというとおそらく1分間が精一杯であったと思う。その他にも、現地の人と簡単な会話が滞りなくできるようになるなど多くの成果を得たと思う。この成果をもたらしてくれた理由としては、チューターステーションと少人数授業が挙げられる。詳細については、おそらく他の人が報告書に記していると思うので割愛する。

次に文化理解の面についてであるが、もちろん台湾文化に対する理解もだが、同時に日本文化に対する理解も深まったと実感している。というのも、後ほど説明するが学習アドバイザーの存在のおかげで、NTU の学生と話をする機会が本当に多かった。彼らと過ごす中で、台湾の文化について尋ねることもでき、また彼らが日本に対して抱いているイメージといったことも耳にすることが出来た。さらに JAPAN Night を企画していく中で、日本文化を真剣に考えた経験も貴重なものである。自分たちがいかに多様で独特な文化を持っているかを再認識するいい機会になったと思う。

2. NTU サマースクールの特徴について

このプログラムの特徴と聞かれると、参加者全員がチューターステーションや学習アドバイザーの存在を口にすると思う。私は敢えて少し違う目線で良い点・悪い点を挙げたいと思う。またその前提として、私が2年半中国語を勉強した上で参加したことを認識しておいていただきたい。まず、中国語の語学留学に行き往々にしてある災難が、韓国人と日本人しかクラスにいないといった状況である。今回のサマースクールでも日本人が半数を占めていたが、幸いなことに NTU サマースクールのもう一つのプログラムである文化コースへの参加者が全員中国人であった。プログラムは違えど、Exploring Taiwan という共通の授業に参加することや、プレゼンを一緒に行う機会があったため、本場の中国語を用いる場面が確保できた。この場は自分にとって効果的な中国語の練習になったと思う。唯一残念な点を挙げると、教科書が台湾ベース（繁体字・アクセントなど）だったため、時に普通語と異なる点があった。だがこの点についてはその場その場で各自修正していけばよいため気に掛けることではない。

3. おわりに

このサマースクールは他のものに比べ、人と交流する機会が圧倒的に用意されているものであ

<事務局使用欄>受付番号:

-

た。そのため、中国語の習得を目的としていた私にとっては申し分のない内容で、将来の進路にも大きく影響を及ぼすものであった。この場を借りて、このプログラムに参加するにあたってサポートしてくださった方々に感謝の意を述べ、以上を報告書とする。